

花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針

＜国産花きの強みと課題＞

- ・平成29年の産出額が3,687億円と農業産出額の4%。
- ・多様で高品質な国産花きは国際的にも高い評価。近年輸出は増加傾向(平成29年に138億円)。

＜施策の方向＞

生産量その他の花き産業の振興の目標 (億円)

	H29実績	R12目標	R17目標
産出額	3,687	4,500	6,500
輸出額	138	200	450
輸入額	511	300(見込)	300(見込)

生産

国際競争力の強化が緊要の課題

- ・近年の国内市場における花き消費の伸び悩み、大量生産された安価な切り花の輸入の増加等に対応する観点から国際競争力の強化が緊要な課題。

流通

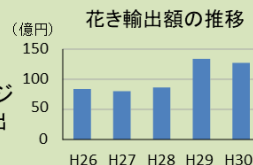
日持ちの良い花きに対する消費者ニーズへの対応

- ・輸入花きからシェアを回復するには、国産花きの鮮度、日持ちの良さ等の強みを活かすためのコールドチェーンの整備等が必要。

輸出

輸出は増加傾向

- ・国産花きは、国際的に高い評価を得ており、アジアや欧米を中心に輸出が増加傾向。



文化

世界に誇る豊かな花きの文化

- ・花きの文化を振興することは、国民の心豊かな生活の実現に資する。



需要

国内外の需要拡大

- ・オリンピック・パラリンピック、国際園芸博覧会の成果を最大限に活かし、国内外の花きの需要を飛躍的に拡大。

生産性・品質の向上と生産者の経営の安定

- ・暑熱。対策等による周年生産、次世代施設園芸の面的拡大、ロボット、AI・IoTを活用したスマート農業技術の導入等の推進。
- ・自然災害等のリスクへの備えとして収入保険や園芸施設共済等の普及促進

暑熱対策



次世代施設園芸



スマート農業



研究開発の推進

- ・花きの新品種の育成や増殖技術の高度化、生産性・品質の向上等の研究開発を推進。

加工及び流通の高度化

- ・加工に関する技術開発や卸売市場等におけるコールドチェーンの整備、流通経路の合理化等を推進。

産地

- ・採花後の前処理(抗菌剤等で水揚げ)
- ・出荷前の温度管理(低温保管)等の徹底

市場

- ・配送施設、卸売場の低温化
- ・輸送時の温度管理(積載前のトラック庫内の冷却等)の徹底

小売店

- ・市場から店舗まで搬送時の温度上昇の防止
- ・入荷時の適切な水揚げの実施、低温ショーケースの利用等。

輸出の促進

- ・産地における輸出に対応した栽培体系の確立。
- ・国際園芸博覧会への政府出展等を活用した海外需要の創出。

輸出対応産地



輸出拠点



国際園芸博への出展



花きの文化の振興

- ・花きの文化の振興に向け、
 - ① 公共施設やまちづくり等における花きの活用
 - ② 花育、日常生活における花きの活用等
 を推進。

公共施設やまちづくりにおける活用



花きの需要の増進

- ・国際園芸博覧会等の開催、切り花の日持ちを保证する販売の確立。
- ・SNSの活用、観光業界、インテリア業界等との連携による効果的な需要喚起。

花いっぱいプロジェクト



標準箱（横箱）のサイズ検討①

1. 流通容器の仕様の現状の整理	① 切り花の流通においては段ボール箱が一般的 ② 横箱と縦箱の二種類 ③ 水分を供給する湿式と水分を供給しない乾式の二種類 ④ サイズ、箱の形式（横開き、両開き等）、材質は様々だが、「切り花の入数」、「産地と市場との意見交換」で仕様が決定されており、物流条件を考慮したデザイン決定は全くされず
2. 標準箱（横箱）サイズの検討	① 我が国で一般的に使用されているT11型パレットへの積み付けを考慮しサイズを検討 ② 4タイプ タイプA；長さ1,100×幅360×高さ260 タイプB；長さ1,100×幅360×高さ173 タイプC；長さ1,100×幅360×高さ130 タイプD；長さ1,100×幅275×高さ130
3. 実証実験	① 標準箱サイズを使用することのメリット・デメリットの確認 ② 実証結果は次ページ参照

標準箱（横箱）サイズの検討②

【T11パレットへの積み付けパターン】

D	D	D	D
A	B	C	
	B	C	
A	B	C	
	B	C	



標準箱（横箱）サイズの検討③

【実証実験の様子】



荷崩れ防止のため、7段で
フィルム巻き



15段まで積み付け



パレタイズド貨物として
トラックに積み込み

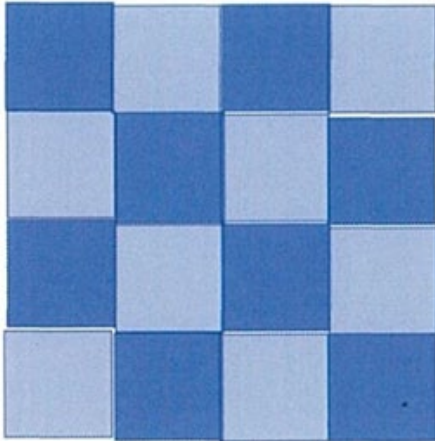
【実証実験の結果】

- 積載率；パレットを使用しない場合と比べて約90%に減
例；16段積み→15段積み ***要検証**
- 荷積み・荷下ろし時間；パレットを使用しない場合と比べて約90%削減
○作業員2人の場合
パレット未使用：荷積み2時間＋荷下ろし1時間＝3時間（180分）
パレット使用：荷積み10分＋荷下ろし10分＝20分

標準容器（縦箱）のサイズ検討①

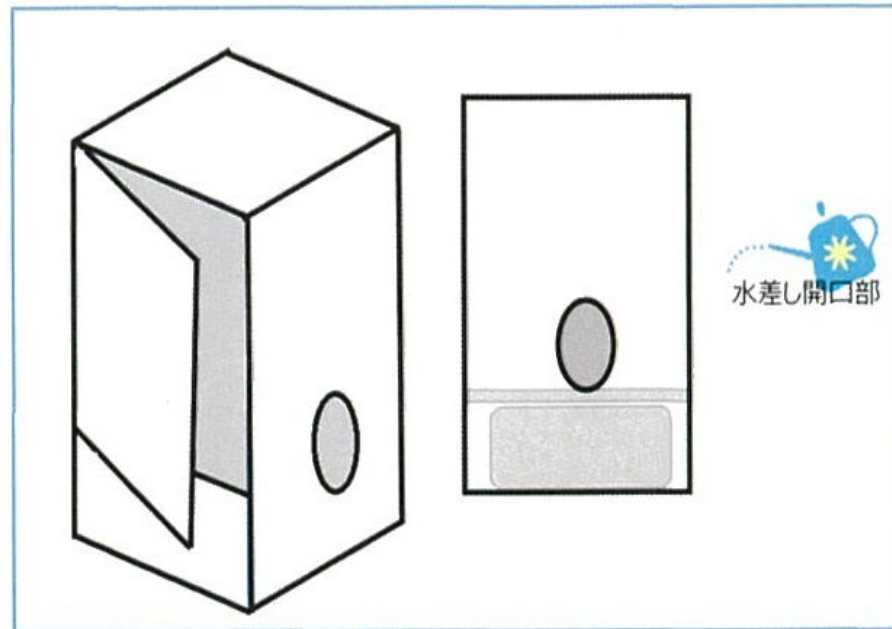
1. 標準箱（横箱） サイズの検討－現状 使用されている箱サ イズの検討	○ 現状使われている縦型に可能な限り揃えること、我が国で一般的に使用されているT11型パレットに適したサイズであることを考慮しサイズを検討 ■ 主にバラ、カスミソウ、チューリップ、ガーベラ等で使用されている長さ240×幅240 ； 16ケース：面積比76% ■ 主にカスミで使用されている長さ300×幅400 ； 8ケース：面積比79% ■ 主にダリア、ストック、カスミで使用されている長さ350×幅400 ； 9ケース：面積比91% ■ 主にバラ等で使われている長さ210×幅210 ； 8ケース：面積比91%
2. 積載効率を考え た箱サイズの検討	○ T11パレットの平面積載効率を100%とするサイズ ① 高さ600×縦275×横275 ② 高さ900×縦275×横275 ○ 仕様・構造（次ページ参照） ● 側面から花きを取り出し可能 ● 保水用の資材が入る

標準容器（縦箱）のサイズ検討②



16ケース：面積比100%

高さ(mm)	縦(mm)	横(mm)
600	275	275
900	275	275



台車（パレット台車）の統一規格の検討

1. 標準容器＋パレット物流に適したマテハン機器の検討	① 標準容器＋パレット物流においては拠点内移動が課題 ② フォークリフト未導入の拠点の存在、場内面積の制約から人力で動かせるマテハン機器が適当
2. パレット台車の仕様・構造の検討	① 1100×1100パレットが載るサイズ ② パレットを使用せず、直接ケースを載せても落下しないメッシュ仕様 ③ 荷重500kg想定。15kgケース×30ケース ④ 自重10kgの軽量構造 ⑤ スタッキング、連結可能等 
3. パレット台車の試験導入結果	① 3拠点で2ヶ月間試験導入 ○ ハンドリフトよりも取り回しがよい × カートへの連結ができない × (柵がないため) 高さ方向に積載できるケース数に制限

台車（ハーフ台車）の統一規格の検討①

1. 園芸用台車の種類と特徴の整理	次ページ参照。
2. 台車に関するアンケート調査	① 利用している台車の種類は2～4種類 ② アルブロックを導入している市場が最多 ③ 切り花よりも園芸品での使用が多く、鉢物産地から市場までの物流の60%以上は台車物流 ④ 台車が重く取り回しづらいことが課題。アルブロックのハーフサイズのニーズが高い。植物専用ではない運送会社の利用も増加することを見通すと台車高を低くする必要
3. ハーフ台車の仕様・構造の検討	アルブロック台車の半分のサイズの台車を設計。 詳細は次々ページ参照。
4. ハーフ台車の試験導入	ハーフ台車を生産地、市場、小売店で使用し、取り回しの良さ、保管スペースの省スペース化を確認するとともに、連結してフルサイズでの使用も支障がないことを確認

台車（ハーフ台車）の統一規格の検討②



- ①全国的に利用されている台車
アルブロック台車
(イワタニアグリ
グリーン株式会社製)
材質；アルミニウム
W1055×D1285×H2068
重量：85.5kg
積載重量；600kg



- ③市場内でのみ利用されている台車
各社ユニークなサイズ
でトラックに積載できないサイズも



- ②特定の地域内での台車
物流で使われているもの
写真は岐阜花卉流通センター所有のもの
材質；アルミニウム
W1046×H2140×D1280



- ④生産地のほ場内で利用されている台車
トラックに積載する前提で設計されていない

台車（ハーフ台車）の統一規格の検討③



サイズ；W520×D1280×H1900

重量　；約15kg

材質　フレーム　　：亜鉛合金

棚板フレーム：亜鉛合金

棚板　　：木製

キャスタ　　：ゴム製



- ✓ 牽引バー付き
- ✓ 2台連結可能
- ✓ 折りたたみ重ね可能

日本花き取引コード（JFコード）の活用①

1. JFコードの 現行整理	取引される品種に対し、品種群や種名等全17項目のデータを収録した6桁の数字のコード番号を設定。 (※後掲「日本花き取引コード（JFコード）の普及②」参照)
2. JFコード設定の背景と現状	情報処理システムの基礎的な要素である花きのコード番号が生産出荷団体や卸売市場、小売店等でそれぞれ異なるため、花き産業全体の総合的な情報化の推進が困難。 → 花き業界全体の共通用語となる取引コードを設定・普及する必要性 ×しかし現在JFコードの普及はほとんど進んでいない。
3. JFコードに対して会員が 挙げる課題	①品種レベルに対応したコードのため商品コードとして使いづらい。 ②新コード登録（新品種発生に伴うコード登録）の即時性に乏しい。 など
4. 課題解決に向けた検討内容	検討中